



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/01/29
SDS整理番号 16125252

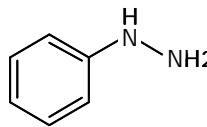
製品等のコード : 1612-5252、1612-4230

製品等の名称 : フェニルヒドラジン

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
染料、医薬、医薬中間体、合成中間体、糖・アルデヒド・ケトンの検出用試薬、
金属沈殿分析 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分4

爆発物 : 区分に該当しない
自己反応性化学品 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない
金属腐食性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分3
急性毒性(経皮) : 区分2
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
皮膚感受性 : 区分1
生殖細胞変異原性 : 区分2
発がん性 : 区分1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(血液)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(血液)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報
可燃性液体
飲み込むと有毒(経口)
皮膚に接触すると生命に危険(経皮)
皮膚刺激
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ
 血液の障害
 長期又は反復ばく露による血液の障害
 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。
 眼、皮膚又は衣類につけないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で優しく洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	フェニルヒドラジン (別名) 1-フェニルヒドラジン、フェニルヒドラジド、 ヒドラジノベンゼン、1-ヒドラジノベンゼン (英名) Phenylhydrazine (EC名称)、Phenyl hydrazide、 1-Hydrazinobenzene、Hydrazine, phenyl- (TSCA名称)
成分及び含有量	フェニルヒドラジン、98%以上
化学式及び構造式	C ₆ H ₈ N ₂ 、C ₆ H ₅ NHNH ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	108.14
官報公示整理番号	化審法：(3)-470 安衛法：公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	100-63-0
EC No.	202-873-5
危険有害成分	フェニルヒドラジン

4. 応急処置

吸入した場合	：呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
皮膚に付着した場合	：直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去る。 皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。

- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡する。
口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入した場合：咳、咽頭痛、脱力感、めまい
皮膚に付着した場合：吸収される可能性あり。皮膚の乾燥、発赤、痛み
眼に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼
飲み込んだ場合：腹痛、下痢、めまい、吐き気、嘔吐、脱力感
医師に対する特別注意事項：溶血症状は数時間経過するまで現れない。医学的な経過観察が必要である。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は可燃性である。
粉末、二酸化炭素、泡、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状注水（本品があふれ出し、火災を拡大したり、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
- 特有の危険有害性：可燃性物質：燃えるが、発火点は高い（自然発火温度：174）。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
- 特有の消火方法：火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
引火点が低い：散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器内に水を入れてはいけない。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所に立入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
環境中に放出してはならない。
- 回収、中和：少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる
空容器に回収する。後で廃棄処理する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- 封じ込め及び浄化の方法：機材：危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策：すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策：裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
引火点(88)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。

	指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
局所排気・全体換気	炎、火花または高温体との接触を避ける。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 眼、皮膚、衣類につけない。 眼に入れない。
接触回避	炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽質な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	容器は遮光し、冷暗所に密閉して保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 酸化剤から離して保管する。 容器は光のばく露や火気を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い場所に保管する。 必要に応じ施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	酸化剤、二酸化鉛、ケトン、アルデヒド
容器包装材料	ガラス、テフロン、ステンレスなど。 塩化ビニル樹脂は侵されるので使用しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH	： 生物学的ばく露指標）： 設定されていない。 TLV-TWA 0.1ppm 皮膚から吸収される。
設備対策	： 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 澄明油状液体又は結晶
性状	： 淡黄色
色	： 不快臭
臭い	： 弱アルカリ性（水溶液）
pH	： 19.5
融点	： 19.5

凝固点	: 18~20
沸点	: 分解 (243.5)
引火点	: 88 (密閉式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 133Pa (71.8)、 10Pa (20)
相対ガス密度 (空気 = 1)	: 3.7
密度又は相対密度	: 1.10
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶けにくい。熱湯にわずかに溶ける。 エタノール、ジエチルエーテルに溶ける。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 1.25
発火点	: 174
分解温度	: 227 (自己加速分解温度)
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類	
引火性液体	: 引火点は88 (密閉式)は、60 超かつ93 以下であることから、 区分4とした。 可燃性液体 (区分4)
爆発物	: UNRTDG クラス6.1に分類されていることから、区分に該当しないと した。
自己反応性化学品	: UNRTDG クラス6.1に分類されていることから、区分に該当しないと した。
自然発火性液体	: 発火点は174 であり、常温の空気と接触しても自然発火しない ことから、区分に該当しないとした。
金属腐食性化学品	: UNRTDG クラス6.1に分類されていることから、区分に該当しないと した。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において定である。 空気や日光により、変質し赤茶色に着色する。 アルデヒド及びケトンと反応してフェニルヒドラゾンを生成する。
危険有害反応可能性	: 酸化剤と反応する。 二酸化鉛と激しく反応する。
避けるべき条件	: 高熱、日光、光、酸素 (空気)、火源、静電気、スパーク
混触危険物質	: 酸化剤、二酸化鉛、ケトン、アルデヒド
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 188mg/kg (ACGIH 7th, 2001, PATTY 4th, 1994) 飲み込むと有毒 (経口) (区分3) 経皮 ウサギ LD50 = 90mg/kg (PATTY 4th, 1994) 皮膚に接触すると生命に危険 (経皮) (区分2) 吸入 (蒸気) 分類できない。
皮膚腐食性	: 吸入 (ミスト、粉じん) 分類できない。 DFGOT (vol.11, 1998)の皮膚刺激性であるとの記述から、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: CICAD 19(2000)のウサギの眼に適用した試験において重度の化膿 性結膜炎が認められたとの記述から、区分2Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感受性	: 分類できない。
皮膚感受性	: ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)のヒトに感受性を示すとの記述、 ならびにDFGOT (vol.11, 1998)およびCICAD 19(2000)のヒトでアレルギー性 接触皮膚炎が認められるとの記述から、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1)
生殖細胞変異原性	: 体細胞を用いる in vivo変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験 (CICAD 19, 2000, PATTY 4th, 1994)およびマウス骨髄を用いた染色体異常 試験 (ACGIH 7th, 2001)で陽性の結果があり、生殖細胞を用いる in vivo遺伝 毒性試験で陽性の結果がないことから、区分2とした。 遺伝性疾患のおそれの疑い (区分2)
発がん性	: 発がんのおそれ (区分1B) (1) マウスに1 mg/匹/day (50 mg/kg/day相当)を42週間経口投与後に 肺に悪性腫瘍及び総腫瘍の発生頻度増加がみられた (CICAD 19 (2000)、 ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 11 (1998)、PATTY (6th, 2012)、

- 厚労省初期リスク評価書(2013))。
 (2) マウスに本物質塩酸塩を100 ppmの濃度で生涯飲水投与した試験で、雌雄ともに血管腫瘍(血管腫、血管肉腫)の発生頻度増加がみられた(ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol. 11(1998)、PATTY(6th, 2012)、厚労省初期リスク評価書(2013))。
 以上のことから、区分1 Bとした。
 : 分類できない。
- 生殖毒性
 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露)
 : DFGOT(vol.11, 1998)およびCICAD 19(2000)のヒトにおける急性毒性として血液への影響が認められるとの記述から、区分1(血液)とした。
 血液の障害(区分1)
- 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露)
 : ACGIH(7th, 2001)のヒト職業暴露例に溶血性貧血が認められているとの記述ならびにACGIH(7th, 2001)、DFGOT(vol.11, 1998)、CICAD 19(2000)及びPATTY(4th, 1994)のラットまたはマウスを用いた反復経口投与または吸入暴露試験において血液への影響が区分1のガイダンス値範囲の投与量で認められているとの記述から、区分1(血液)とした。
 長期又は反復ばく露による血液の障害(区分1)
 : 分類できない。
- 誤えん有害性
 : 分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性): 魚類(ゼブラフィッシュ) 96時間LC50=0.16-0.25mg/L
 (CICAD19、1999)
 水生生物に非常に強い毒性(区分1)
- 水生環境有害性 長期(慢性): 区分に該当しない。
 急速分解性があり(TOCによる分解度: 97%(CICAD19、1999))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(Log Kow=1.25(PHYSPROP Database、2005))ことから、区分に該当しないとした。
- 残留性・分解性 : 高分解性。TOC分解度=97%
- 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow=1.25
- 土壌中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考)(1)燃焼法
 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。
 (2)活性汚泥法
 生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号: 153

国際規制

海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2572
 Proper Shipping Name : PHENYLHYDRAZINE
 Class : 6.1(毒物)
 Sub risk : -
 Packing Group : II
 Marine Pollutant : Yes(該当)

Limited Quantity	: 100mL
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)	
UN No.	: 2572
Proper Shipping Name	: Phenylhydrazine
Class	: 6.1
Sub risk	: -
Packing Group	: II
国内規制	
陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う)	
海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)	
国連番号	: 2572
品名	: フェニルヒドラジン
クラス	: 6.1
副次危険	: -
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるば積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: 非該当
少量危険物許容量	: 100mL
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)	
国連番号	: 2572
品名	: フェニルヒドラジン
クラス	: 6.1
副次危険	: -
等級	: II
少量輸送許容量	: 1L
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第470号「フェニルヒドラジン」、対象重量%は 1) 名称等を通ずべき危険物及び有害物 (政令番号 第470号「フェニルヒドラジン」、対象重量%は 0.1) (別表第9) 強い変異原性が認められた化学物質 (労働省通達 基発第626号の2 '98.10.30) がん原性物質 (則第577条の2) 皮膚等障害化学物質等 (則第594条の2)
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体、 指定数量2000L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	: 非該当 (R5年4月1日から)
船舶安全法	: 毒物類・毒物 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 毒物類・毒物 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質 (中環審第9次答申の180) 「フェニルヒドラジン」
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2928.00 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2024年1月版): 2928.00-000 「ヒドラジン又はヒドロキシルアミンの有機誘導体」 ・輸入統計番号 (2024年1月1日版): 2928.00-000 「ヒドラジン又はヒドロキシルアミンの有機誘導体」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。